

鍼灸で 健やかに!

17

登美ヶ丘治療院院長

野口 創



前立腺炎の鍼灸治療

前立腺炎には、慢性のものや急性のものがある。急性細菌性前立腺炎の場合は、前立腺に細菌感染を起し、発熱とともに前立腺が

大きく腫れ、
排尿困難、残
尿感、頻尿、
排尿時痛を生

周囲温めて血流改善

じる。前立腺が腫れて尿道を圧迫し尿閉塞に至る場合もある。

慢性細菌性前立腺炎の場合は、頻尿、残尿感、会陰部の不快感、疼痛、排尿困難を生じる。急性細菌性前立腺炎との違いは、症状が

比較のおだやかで、発熱が認められないこと。

痛時感
尿残
排

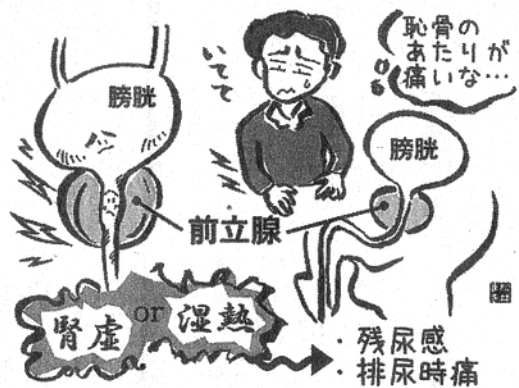
どちらの場合も治療には、抗生剤や抗菌剤が主となるが、慢性の場合には、しつこく症状が改善しない場合が多い。同じ慢性の前立腺炎でも、非細菌性のものであるが、症状は細菌性のもと同様。慢性非細菌性前立腺炎が、前立腺炎のなかで最も

高頻度にみられ、全体の90%近くもあるのに、決定的な療法は確立されていない。
身体が冷えると風邪を引きやすいというのが誰でも知っていることだが、身体が冷えると免疫力が低下し、風邪を引いてしまうのと同じように、前立腺周囲、膀胱周囲(こう)周囲が、局部的に抵抗力が下がりさまざまな症状を引き起こす原因となる。

中国医学では急性前立腺炎を「膀胱濕熱証」と呼ぶ。下腹部の生殖器などを含めて膀胱と呼ぶので、「膀胱濕熱証」には、前立腺炎だけでなく膀胱炎や尿道炎、尿路結石症、慢性骨盤痛症候群などが含まれている。

中国医学も現代医学の消炎、利尿、止痛、抗菌と似たような治療である。「侵入した濕熱邪を取り除く」鍼灸治療を行う。

慢性前立腺炎を「腎陽虚損証」と呼び、炎症を鎮める治療と全く逆の鍼灸治療で前立腺周囲、膀胱周囲を温め、栄養分を含んだ新鮮な血液が運ばれていくように血流改善を行う。血流が改善されることで前立腺の細胞に酸素と栄養が与えられて、下腹部の温度が上がります。抗生剤や抗菌剤の過度の服用で崩れた前立腺周囲の体内環境を整え回復する。



野口創氏の略歴

1992年
1994年
1998年

鍼師、灸師、按摩・マッサージ・指圧師の免許取得。カナダ(トロント)指圧クワニックで研修・勤務。
中国、北京中医药大学に留学。北京中医药大学付属病院や中日友好病院で研修。
中国南陽市張仲景國医大で李世珍教授に師事。

登美ヶ丘治療院開設。

登美ヶ丘治療院

奈良市中登美ヶ丘 1の1
6の1の1
(学研奈良登美ヶ丘駅)
電話・ファクス
0742 (48) 5556
ホームページ
<http://www.tomisaoka.com/>

このように

鍼灸治療は、その病気を治すための根源的な治療、患者さんの体質そのものを改善する治療である。

※中国語、英語対応